

駅前商店街の空き店舗を活用し、産・学・公連携による学生実験ショップを出店。学生のアイデアによるカフェに学生・市民が集まり、中心市街地の賑わいを創出した。

亀岡商工会議所

機関名	亀岡商工会議所		
所在地	京都府亀岡市余部町宝久保1番地1		
電話番号	0771-22-0053		
地域概要	(1)管内人口 95千人	(2)管内商店街数 28商店街	
事業の対象となる商店街の概要	(1)商店街数 1	(2)会員数 65商店	
	(3)空き店舗率 15%	(4)大型店空き店舗数 0	
	亀岡駅前商店街振興組合		
商店街の種類	1. 超広域型商店街 2. 広域型商店街 3. 地域型商店街 4. 近隣型商店街		

【事業名と実施年度】

平成16年度	空き店舗対策事業	・学生実験ショップ（ティーサロン、ギャラリー&ライブスポット、中国語講座、ハングル語講座、商店街ガイドなど）
	総事業費	6,404千円

【事業実施内容】

1. 背景

亀岡市は、京都市の西に位置し、大阪府とも隣接している。隣接する京都市とJR山陰本線・国道9号・京都縦貫自動車道などで結ばれ、京都市へは約20分、大阪市へは約1時間と、暮らしや経済、観光にも便利な町となっている。

京阪神都市圏とのすぐれたアクセスと、緑が多い快適な生活空間を有する亀岡市は、着実な人口増加を続け、現在は京都府内3位の人口を有する市である。

郊外型ロードサイド店舗の増加により、亀岡駅前などの中心市街地は、空き店舗の増加など商業地としての機能が低下し賑わいが喪失してきている。本事業は、まちの賑わいを再生するため、学生の若いアイデアを取り入れた実験ショップを出店させることで亀岡駅前及び亀岡地域商業の活性化を図ること狙ったものである。



亀岡市位置図（亀岡市HPより）

2. 事業内容

亀岡市官学共同研究会の「亀岡駅周辺にぎわいまちづくりの提案」におけるリーディングプロジェクトの一つである『学生実験ショップ』について、産（亀岡商工会議所、亀岡駅前商店街振興組合）・学（京都学園大学）・公（亀岡市・京都府）が連携し、事業化を図ることによって、亀岡駅前のにぎわいづくりと亀岡地域商業の活性化を目指すことを目的とした事業である。

(1) 事業概要

市民・学生・商業者の交流コミュニティスペース「カフェ&ギャラリー『スペース・CONOCER（コノセル）』」の実験・運用を行った。CONOCERとは、スペイン語で「知り合う」という意味である。

①事業企画・運営体制

カフェ&ギャラリー『スペース・CONOCER』は、京都学園大学ビジネスプランニングコンテスト（応募プラン8件）の中から優秀賞に選出された企画である。企画は、京都学園大学経営学部事業構想学科2名、経営学部経営学科1名の計3名のグループによるものである。他学生2名が加わり店舗運営に当たることとなった。

②事業期間

平成16年10月9日～平成17年3月31日

③施設概要

1) 実地場所

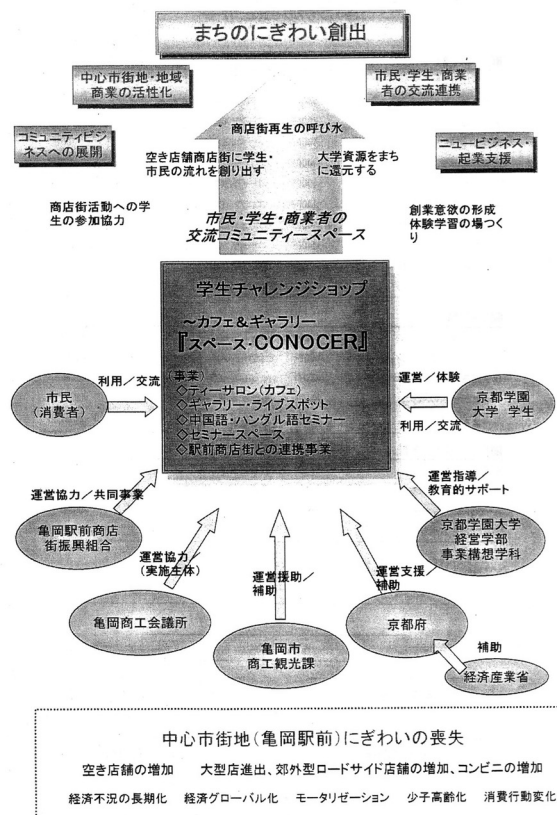
亀岡市追分町馬場通り19-2プティビル1階C号（JR亀岡駅前貸しビル1階の空き店舗を活用）

2) 開業日：平成16年10月9日

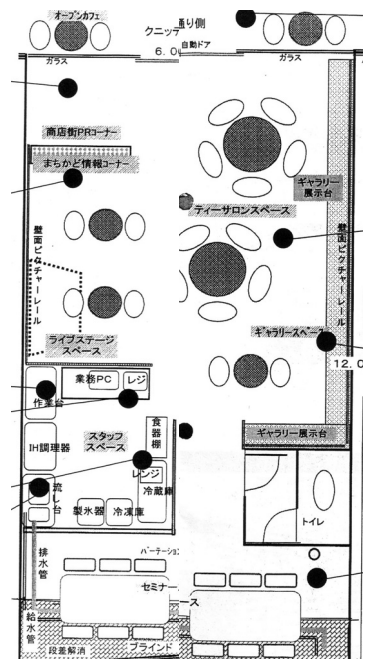
3) 店舗面積：約70㎡

4) 営業時間：午前11:00～午後7:00（火曜日定休）

「学生チャレンジショップ」事業展開構想図



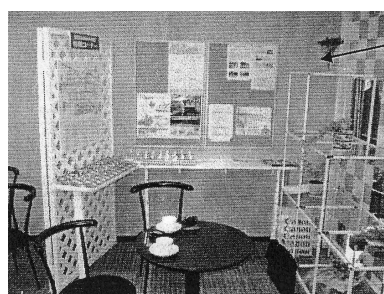
「学生チャレンジショップ」事業展開構想図



CONOCER見取り図



CONOCERの外観



CONOCER内部の様子

④施設機能

1) ティーサロン (オープンカフェ・中国茶)

オレンジを基調とした内装である。学生とその他の年代の方がお互いに交流できる雰囲気を作り、高齢者にも親しみやすい店舗を作り上げた。

- ・料金：ドリンク類 300～500 円, フード類 200～450 円, デザート類 350～500 円
- インターネット ワンドリンク付 30 分 300 円 (延長 30 分につき 100 円)

<ティーサロン利用実績>

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
売上高	224,800	284,680	188,350	137,050	118,900	125,020	1,078,800
来店客数	483	566	391	258	245	305	2,248
客単価	465	503	482	531	485	410	平均 479.3

2) ギャラリー&ライブスポット

大学生等による写真や絵などの作品を展示するギャラリーとして利用したり、ライブスポットとして利用したりすることで、地域住民との交流や学生同士の情報交換を目的としたスペースとした。京都学園大学写真部や亀岡市民団体の写真展示、個人の作家による写真や絵の個展などが行われた。

3) 中国語・ハングル語・英語セミナー

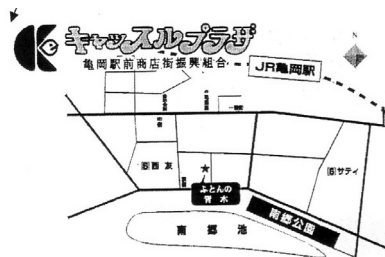
ハングル語講座は、お試し講座と本講座に分けて講座を開催した。英語講座は英会話などについての講座を開催した。毎回の参加人数は、ハングル語講座 (6～9名)、中国語講座 (5～6名)、英語講座 (3～4名) となっている。

4) 亀岡駅前商店街振興組合との連携事業

店舗内の「街角情報コーナー」に商店街の各店の情報カードを置き、利用者の利便性向上を図るとともに商店街の店舗の紹介をした。商店情報は、店名・営業時間・住所・電話番号・FAX番号・キャッチコピー・店舗の地図である。



街角情報コーナー



商店街紹介カード（情報カード）
（左：表面 上：裏面）

【 効 果 】

1. 来街者の行動

カフェ店内には貸しギャラリーを設け、市民サークルの発表・展示の場として利用していただくほか、語学講座の開催により地域住民と学生の来店を促し、情報交流の場として貢献した。多くの消費者がCONOCERを利用したため、商店街の通行量が増加した。

2. 商店街との連携による利便性の向上

店内に「街角情報コーナー」を設けて、来店者に商店街の各店を紹介できるように名刺サイズの「紹介カード」を置いたほか、各店の宣伝コーナーとして利用していただくことで商店街との連携事業を実施した。また、在学生向きの駅前商店マップを作成し利用促進を図った。これら情報提供により顧客の利便性が向上した。

【 課 題 ・ 反 省 点 】

1. PR

専用の駐車場がないことから、隣接する大型店（西友）の買い物客を取り込むことを予定していたが、外観から何の店か分からないとの声もあるなど誘客が図れなかった。今後は店舗内容を含めたPRに注力することが課題である。

2. 他店との差別化

経営について、メニューに差別化を図り、客単価を上げる工夫が十分に図れてなかった。今後は他店との差別化を図り、もっと収益が出る事業構造にすることが課題である。

3. 支援体制の確立

亀岡商工会議所、亀岡駅前商店街振興組合、京都学園大学、京都府、亀岡市それぞれが連携し、事業費の確保を行い、亀岡駅前の賑わい作りと亀岡地域商業の活性化を目指した。産・学・公が協力し学生チャレンジショップの事業化を実現することができたが、限られた中で十分な協議ができず、学生への指導・サポート体制が十分に確立できていなかった。今後はさらに産・学・公の連携を深めて学生への支援体制を充実させる必要がある。

【事業の実施ポイント】

通常のカフェ（喫茶）では、差別化が図れない。特に“学生が自ら企画・実施”していることを前面にPRし、学生のアイデアで店内の設営を行い他店との差別化を図ることで、誘客が図れると思われる。

【関連URL】

亀岡商工会議所	http://www.kyo.or.jp/kameoka/
CONOCER	http://www.geocities.jp/cafeconocer/
亀岡市	http://www.city.kameoka.kyoto.jp/
京都学園大学	http://www.kyotogakuen.ac.jp/